

週日の説教

金 大烈 神父 2010年1月12日(火)

《正しい権威》

昔の話をします。アメリカの独立戦争の時です。ある軍隊で、下士官が兵士達に大声で命令をしていました。その命令は、“大きい丸太を別の場所へ運ぶように”というものでした。その下士官は高いところに立ち、怖い顔をして、ものすごく大きな声で、あれこれ命令だけをしていました。それを見たある紳士が、「なぜあなたは、人にさせてばかりなのですか。」と聞きました。下士官は、「私は人にさせるのが役目です。構わないでください。」と答えます。するとその紳士は、馬から降りて服を脱ぎ、兵士達と一緒に一生懸命に丸太を運んだそうです。そして、全部運んだ後、下士官に「もし、また丸太のようなものを運ぶことがあれば、あなたの総司令官にもやって欲しいと求めなさい。」と言ったそうです。彼はアメリカ軍隊の総司令官であり、そして未来の大統領となったジョージ・ワシントン(George Washington)でした。その話しが噂となり、「このような人格の人ならば信頼が出来る」という世論が広まったそうです。

さあ、今日の福音(マルコ 1・21 28)を読みますと、『新しい権威ある教え』のことが書かれています。律法学者たちにも権威はあったのですが、『今までとは違う新しい権威ある教え』の話でした。人々がそのように感じたとき、汚れた霊に取り付かれた人が叫びます。「かまわないでくれ。私はあなたの正体がわかっている。聖なるものだ。」と。するとイエス様は、「だまれ、出て行け」と言います。そして悪霊さえ従順させるその姿を見た人々により、「イエス様の新しい教えと権威ある姿についての噂が広まった」と今日の福音で話されています。

皆様は、『権威』についてどのようなイメージをお持ちでしょうか。やはり否定的なイメージですよね。“力のある者が力のない者に何かをさせる”そういう力を権威と考えるのがほとんどの場合でしょう。しかし、『権威』の中には、必要なものもあります。その必要な権威が崩れてしまうと、この世の中は、滅茶苦茶になってしまいます。では、必要な権威とは、どのようなものでしょうか。簡単です。家庭の中の『親の権威』です。子どもが親を無視して軽んじてしまうと、それは『家庭』ではありません。それでは、子ども達は絶対に正しい道を歩むことができません。親がきちんと勉強したかどうかは関係ありません。親の存在自体に権威を置き「尊敬しなければならない」ことを感じさせることです。しかし、よく見回してみてください。今の時代は、親が子ども達になぐられています。

少し悲しい話です。

5、6年前、ある日70歳代くらいの母親が50歳代くらい息子を連れて来ました。そして「子どものための相談に来たので、私は席を外します。」と言い、彼女は席を立ちました。彼と話し合った内容は、彼の子どものことでした。彼は身長が1メートル70センチメートルくらいはありましたが、子どもは1メートル90センチメートルだそうです。そして、「たまに殴られますが、体格では子どもに勝てないので、抵抗できません。怖くてしかたなく、今は別の家に住んでいます。」と言いました。私は、「あなたは殴られるくらい悪い親だったのですか。」と聞いてみました。すると彼は、「いいえ、私は親としてすべきことは全てしました。しかし、妻との関係が悪く、そのために、子どもがこのよ

うになるのです。」と答えました。

皆様、このようなことは彼の家族だけだと思いますか。少なくとも1980年代以降、このような家族が多くなっています。悲しいことですが、本当にたくさんいます。いくら悪い親でも、親は親です。民主主義とか平等など、よいことをたくさん話しながら、基本的に大事なことを全部なくしてしまった今の時代の姿をみたら本当に心が痛みます。親は親です。何があっても子どものために祈るのが親です。何があっても子ども達のために全てのことを願うのが親です。親のために死ぬことができるのが、子どもの自然な心です。しかし、その自然な心さえ壊れてしまっているのが今の時代ではないかと思います。学校の教育は、もっとひどいかもかもしれません。親が子ども達に、先生の話を受けないような雰囲気を作ります。

面白い話をします。

ある有名な将軍がいました。その将軍の権力は、すごいものでした。政治家達も彼を気にして、はっきり物が言えないくらいの力がありました。その将軍には小学生の子どもがいました。ある日、子どもが学校から帰ってきて、「先生は、おかしい」と言ったそうです。するとその将軍は、手紙を書き、先生に渡すように子どもに言いました。それは、食事に招待する手紙でした。そしてその当日。先生が呼び鈴を押した途端に、将軍である父親はすぐに立ち上がり、門まで走り出て、ひれ伏しながら「先生いらっしやいませ。こんな粗末なところへ来ていただいてすみませんでした。」と挨拶したそうです。“世の中で自分の父親が一番偉い”と思っていた子どもにとって、これは衝撃的でした。頭を下げて先生を出迎え、帰るときまで心をこめてもてなす父親の姿を見て、その子どもの人生が変わったそうです。これは、実際に私の故郷にあった本当の話です。

さあ皆様、『権威』というものは、自分で作ろうとしてできるものではありません。それは、人々が与える評価です。その人の振る舞いや心の使い方などによって、『権威』はできるのです。ということは、今のように家族の関係さえ崩れるということは、やはり親の責任だと思います。教育が甘すぎるのです。先生も全く同じです。ですから、一番責任を感じなければならないのは、親と先生だと思います。これから、もっと正しい親、もっと正しい先生としての姿を見せなければならないと思います。

皆様、これは必ず繰り返されます。皆様の子どもの世代はもっとひどくなります。それは悲しいことです。正しくない雰囲気には絶対に流されないように、私たち自身がキリスト信者として頑張らなければならないと思います。

もしかしたら皆様にも、劣等感などの否定的な気持ちから、正当な権威に従っていないことがあるかもしれません。信者はまず正しい権威に従うものです。そして自分も見習うのです。これが正しい態度ではないかと今日の福音を読んで黙想してみました。

ありがとうございました。